

財団法人千里文化財団 沿革（敬称略）

- 1976年 民族学振興会(保谷市)は国立民族学博物館の活動を支援するために千里事務局を設置。博物館担当理事に梅棹忠夫館長、財団担当理事に佐治敬三(サントリー株式会社社長)が就任。
「国立民族学博物館友の会」の発足準備に着手
- 1977年 「国立民族学博物館友の会」を発足（5月10日）
『季刊民族学』『月刊みんぱく』創刊（10月）
国立民族学博物館が開館（11月）
ミュージアム・ショップを設置
- 1978年 「友の会ニュース」創刊（5月）
- 1982年 開館5周年を迎える。
開館5周年記念事業として記念講演会「世界を見る目」(梅棹忠夫)等を開催
- 1983年 永年にわたってわが国の民族学・文化人類学の発展に貢献してきた民族学振興会の千里事務局が母体となり、「財団法人千里文化財団」が発足。会長に梅棹忠夫、理事長に佐治敬三、専務理事に湯浅叡子が就任。
千里文化財団はその社会的要請に応えるため、千里事務局時代からおこなってきた「国立民族学博物館友の会」の運営をはじめとする同館への協力事業を一段と進めるほか、民族学・文化人類学の振興に基盤を置きつつ、文化的、国際的諸問題の調査・研究、各種催し物の企画・実施、研究会の企画・運営など、広範な事業を開始
- ※1999年の財団法人民族学振興会の解散以後、民族学・文化人類学の発展と普及の役割を担う日本唯一の財団として活動している
- 1984年 「財団法人千里文化財団の出発を祝う会」開催（2月）
- 1987年 開館10周年を迎える。
開館10周年記念事業として、巡回展「神々のかたち — 仮面と神像」等を開催。
「友の会」発足10周年記念「みんぱく大集合」実施
- 1997年 開館20周年を迎える。
開館20周年記念事業として、記念講演会「21世紀世界と民族学」（石毛直道、河合隼雄）等を開催。
「友の会」発足20周年記念「みんぱく大集合」実施
- 2000年 小林庄一郎(関西電力株式会社顧問)が理事長に就任
- 2001年 『季刊民族学』100号刊行。
「友の会」発足25周年記念事業を実施
- 2007年 開館30周年を迎える。
開館30周年記念事業として、記念講演・対談「モザイクの思考 — 多様性を求めて —」（養老孟司、松園万亀雄）等を開催。
「友の会」発足30周年記念「みんぱく大集合」実施。
博物館内の友の会カウンターをリニューアル
- 2009年 「みんぱくフリーパス」の新設
- 2010年 「国立民族学博物館キャンパスメンバーズ」の新設

(2011年1月1日現在)